

はーとふる コラム

昭和医科大学富士山麓自然・生物研究所
所長 平井 康昭

皆

さんはヘビイチゴと聞いて何を連想されるでしょうか？

ヘビイチゴはバラ科の植物で日本各地に自生し、春に黄色い花が咲いたのち小さな赤い実をつけます。私が勤務する山梨県富士吉田市周辺では、古くからヘビイチゴの実を焼酎に漬けた液を虫刺されやかゆみ止めの目的で使っています。

東京で生まれ育った私には全くなじみがありませんでしたが、今でも多くの家庭に常備されているようです。あまりにも使っている方が多いせいか、市内の病院に着任された卒業生から「ヘビイチゴって何？患者さんからよく聞くけど本当に効くの？」と尋ねられることが少なくありません。

このように、ある地方で経験的に使われてきた薬草を民間薬といいます。民間薬の代表的なものにはゲンノショウコ（止瀉薬）、ドクダミ（緩下・利尿薬）、センブリ（健胃薬）があり、これらは厚生労働大臣の定める医薬品の規格基準書、日本薬局方に収載されています。先人の知恵も捨てたものではありませんね。

トウルー ハート

True Heart

NO.5

July. 2025

地域医療を 応援しています！



多様に進化する移動薬局

～災害時にはおくすりを届け、
いつもは地域の健康サポートステーションとして～



ご寄付のお願い

公益財団法人 昭和医科大学医療振興財団は、超高齢社会を迎えた今日において、次代を担う情熱ある医学・医療分野の実践者を全国各地から発掘し、顕彰する事業を進めております。

この顕彰事業も今年で12年目を迎え、さらなる事業の拡大を目指すとともに皆様からのご寄付により、優れた医療人を今後も顕彰してまいります。引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

公益財団法人 **昭和医科大学医療振興財団**

〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目2番15号

TEL : 03-3783-6731 FAX : 03-3785-7350

email igakusinko@ofc.showa-u.ac.jp

URL https://showa-mf.jp



公益財団法人
昭和医科大学医療振興財団
SHOWA UNIVERSITY MEDICAL FOUNDATION



…> 移動薬局車両による災害支援活動

| 第10回 昭和上條医療賞・奨励賞

アイ薬局 代表取締役

村木 理英 先生

自然災害時などの医療支援のため、移動薬局車両（EPV）を平成30年にいち早く導入し、岡山県内での大規模な災害時に出動し、多数の災害処方箋の対応など支援活動を行った。

また、円滑なEPVの初動活動を行うための支援体制整備として、岡山県薬剤師会、総社市との協定を締結し、岡山県災害薬事コーディネーターの能力向上を目的とした研修や災害派遣薬剤師の能力向上を目的とした情報提供などの活動を継続した。

【昭和上條医療賞・奨励賞】

地域保健医療の実践および教育の分野において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果をあげた個人またはグループには昭和上條医療賞、またこれらの活動を立ち上げて数年の個人またはグループに対しては昭和上條奨励賞を顕彰することを目的としています。

顕彰対象は全国の病院、診療所、薬局その他の医療関連機関において、地域医療保健活動に携わり国民の健康増進に幅広く貢献している活動を対象とします。

Q 移動薬局（モバイルファーマシー）って、何ですか？

災害時に調剤や医薬品を供給できる車両です。全国での導入台数は、薬剤師会導入が13台、大学支援での導入が5台、当薬局のケースのように民間企業による導入が2台あります。災害は減ること無く、全国レベルで発生しています。避難される方にとって、医薬品の安定した供給は薬剤師の使命と考え、地域薬局としてアイ薬局が2018年に購入しました。



あなたの街の
医療従事者のご推薦を
お待ちしております！

Q 西日本豪雨では、倉敷市真備町の1/3が浸水するという大災害が発生しました。早速、この移動薬局を派遣されました。当時の様子をお聞かせください。

2018年6月28日から7月8日まで降り続いた雨で7月7日から8日にかけて倉敷市真備町の小田川が決壊しました。早速、最大の避難所であった岡田小学校に出動しました。炎天下で汗の絶えない毎日でしたが、7月11日より21日まで設置して医療用医薬品および一般医薬品（OTC）を供給することが出来ました。

Q 避難所における移動薬局では、どのような経験をされましたか。

日頃から服用されているお薬を中断することなくお渡しできたこと、街中に積もった土砂がホコリとして舞い上がり目の痛みを訴えておられる多くの方への対応などあらゆる医療ニーズにお応えできたのではないかと思います。最も印象に残っていることは、被災に遭われた皆様の悲しい生活の現実を何うことでした。また、日赤医療チームや国境を越え医療支援を行っている特定非営利活動法人 TMAT のドクターが移動薬局に大変ご興味を持たれ、薬が届いたと歓喜されていたのが印象的でした。

Q モバイルファーマシーの維持管理は結構大きな負担になると聞きましたが。

確かに購入時より維持管理は大きな課題です。そこで平時でも地域で役立てるため、地域の健康管理に移動薬局の力を発揮させることにしました。血圧計、骨密度計あるいは血糖値測定機器などを山間部の池田地区に運搬して、測定に参加していただくと同時に健康教室を開いております。

Q 健康教室の様子を教えてください。

2024年8月より、「池田地区健康教室」として月に1回開講しています。地元の池田 小道の駅（いけだ こみちのえき）のスタッフの方の協力を得ながら、地域の高齢者が毎回10～20名参加されます。講師には、岡山大学大学院医歯薬研究科の寄付講座（アイ薬局が開設）より教員や学生が応援に参加されます。



Q 健康教室のテーマはどのようなお話しですか？

熱中症対策、梅雨時期の不調、高齢者の不眠、高齢者のうつ、便秘、フレイル、高血圧などです。

Q 薬局として、地域住民の健康管理を目的に発展することは住民の皆さまにとって有り難いことと思います。皆さんの声や今後の展開についてお聞かせください。

参加者の皆様からは、「病気や薬について様々なお話が聞けて勉強になる」、「計測コーナーのおかげで通院の間の健康チェックになり健康管理に前向きになりました」とご好評をいただいております。これからも継続してほしいというお声もいただいております。今後、この取り組みを全市的に拡大していきたいと考えております。